社団法人日本数学会５０周年記念講演会について

理事長　岡　本　和　夫

社団法人日本数学会５０周年記念講演会は，日本数学会主催，群馬県藤岡市共催により，１９９６年１１月９日午後１時より，東京都目黒区駒場の東京大学教養学部講堂で開催されました．当日のプログラムは次の通りです．

第１部　日本数学会５０周年記念式典

13:00 ～ 13:30

日本数学会理事長挨拶

日本数学会関孝和賞について

関孝和賞授賞式

藤岡市長祝辞

日本数学会賞建部賢弘賞授賞式

13:30 ～ 14:30

日本数学会関孝和賞受賞記念講演

F. Hirzebruch : Regular Polyhedra and the Football

第２部　市民講演会

15:00 ～ 16:00

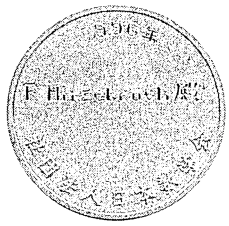
佐藤健一（明治大学付属中野八王子中学校・高等学校教頭）

：和算家関孝和の人と業績

16:30 ～ 17:30

深谷賢治（京都大学教授）：空間とはなにか

既に「会報」でお知らせした通り，１９９６年５月に理事長あて，群馬県藤岡市と同市教育委員会より，日本数学会関孝和賞受賞者に対して，今後，藤岡市としても顕彰したい旨の申し出があり，検討の結果，この申し出をお受けすることになりました．群馬県藤岡市は関孝和の出生地とされており，同市では関孝和全集の刊行の援助，関孝和の名を冠した全国珠算大会を５０年近く主催する，等の活動を行っています．



日本数学会関孝和賞の授賞式は，まず，日本数学会理事長から，ヒルツェブルッフ教授に賞状と副賞のメダルが手渡されました．続いて群馬県藤岡市による顕彰が行われました．記念講演会には藤岡市の塚本昭次市長，岡田要同市教育長らが出席され，第１回および第２回の日本数学会関孝和

で，マックス・プランク数学研究所の所長を勤められました．この間１００名以上の日本人数学者が，ボン大学，マックス・プランク数学研究所に滞在し，ヒルツェブルッフ教授の指導を受け，諸外国の数学者との幅広い交流のなかで研究を行ったことは，日本の数学の発展にとって極めて重要な役割を果たしました．

フリードリッヒ・ヒルツェブルッフ教授のこのような長年にわたる功績は，日本のみならず世界の数学の進展に大きく貢献するものであり，この業績に対して日本数学会関孝和賞が贈られたものです．

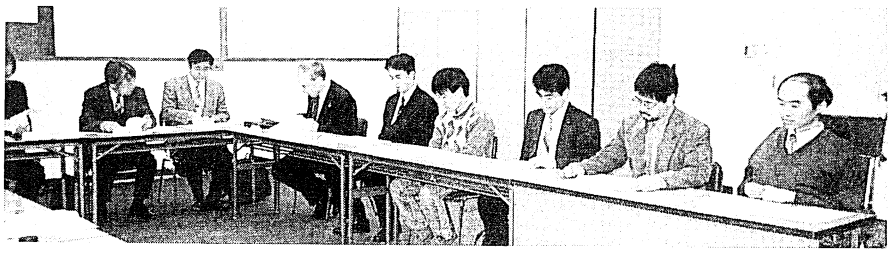
日本数学会賞建部賢弘賞受賞者について

日本数学会は５０周年を記念して，日本数学会賞建部賢弘賞を創設しました．この賞は，若くして優秀な業績をあげる等の，数学の活性化に寄与している日本数学会会員の研究を奨励する目的で制定されました．

本賞の第１回目にあたる，１９９６年度受賞者の推薦募集は，会報８２号で行いました（「数学通信」第１巻２号）．１１月７日の記者会見で発表した受賞者と業績は次の９名の方々です（年齢順，敬称略，所属は応募時点のものです）．受賞者の業績については「数学」４９巻２号に掲載される予定とのことです．

吉川　克之（関西学院大学理学部，非常勤講師）：４次元球面内の曲面の研究
三町　勝久（九州大学大学院数理学研究科，助教授）：量子群と超幾何関数
佐伯　　修（広島大学理学部，助教授）：微分可能写像の体域的特異点理論
松崎　克彦（お茶の水女子大学理学部，助教授）：クライン群の複素解析的研究
並河　良典（上智大学理工学部，助教授）：カラビ・ヤウ多様体のモデュライの研究
泉　　正己（東京大学大学院数理科学研究科，助教授）:作用素環論におけるsubfactorの分類とその応用
吉岡　康太（広島大学理学部，助手）：代数曲面の安定ベクトル束のモデュライの研究
木村　正人（大阪教育大学，助手）：移動境界問題の解析
加藤　　毅（京都大学大学院理学研究科，助手）：Novikov 予想

また，本講演会に先立ち，前々日の１１月７日（木）13:30 ～ 14:30 に第百生命野沢研修所において記者会見を行い，日本数学会賞建部賢弘賞の受賞者を発表しました．記者会見にはヒルツェブルッフ教授を始め，建部賢弘賞受賞者も出席しました．ヒルツェブルッフ教授には日本人数学者とボン大学，マックスプランク研究所とのかかわり合い等について語って頂き（逐次通訳は酒井文雄理事による），建部賢弘賞受賞者には「数学との関わり」「数学をしていて良かったと思う点」等について，お１人づつ語っていただきました．



日本数学会
記者会見風景

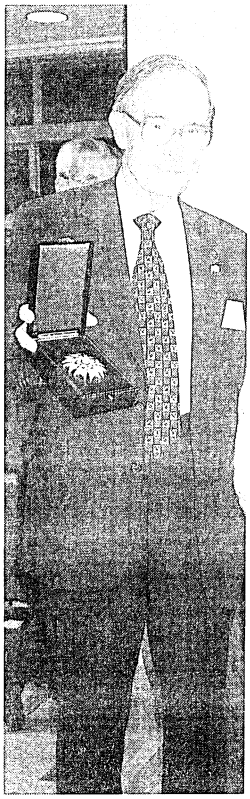
賞受賞者の顕彰を行いました．故谷口豊三郎氏とヒルツェブルッフ教授に対し，塚本昭次市長から表彰状が，岡田要教育長から副賞として関孝和のブロンズ像が，それぞれ贈られました．なお，故谷口豊三郎の代理として，奥川吉三郎，章子ご夫妻が出席し，故人の御長女である奥川章子さんが賞状と副賞を受け取りました．

日本数学会賞建部賢弘賞の授賞式では，海外出張中の加藤毅氏は欠席でしたが，出席した受賞者全員が壇上に並び，一人一人に対して理事長から表彰状が授与されました．

フリードリッヒ・ヒルツェブルッフ教授の英語による講演は，高校生や市民を対象としたものであることを考慮して，浪川幸彦理事による逐次通訳付きで行われました．講演原稿の原文は「数学通信」本号に掲載し，その全文の日本語訳は雑誌「数学」49巻2号（1997年春季号）の誌上に，ヒルツェブルッフ教授の業績紹介と併せて掲載する予定とのことです．

また，佐藤健一氏，深谷賢治氏の市民講演会の記録も本号に掲載します．

この記念講演会には，約２００名の会員，高校生，市民が参加し，成功裏に終了いたしました．当日の運営，事前の準備に関して多くの方に協力頂きました．この誌上を借りて感謝いたします．



懇親会で勲章を披露するヒルツェブルッフ教授

講演会終了後18:15 より，同じキャンパス内にある大学院数理科学研究科棟コモンルームにおいて，懇親会を行いました．懇親会には，講演者，日本数学会賞建部賢弘賞の受賞者および藤岡市関係者等を招待致しました．招待者を含めて参加者は約９０名でした．

ヒルツェブルッフ教授は１９９６年秋の叙勲で，勲二等瑞宝章を受けましたので，関孝和賞受賞と併せてお祝いする会となり，盛況のうちに終了いたしましたことを報告いたします．

日本数学会関孝和賞受賞者について

社団法人日本数学会は，1994年度に日本数学会関孝和賞を創設しました．この賞は，数学の業績以外で数学の発展に寄与し，学術文化の向上発展に著しい貢献をした個人および団体の業績を顕彰するものであり，第１回受賞者は故谷口豊三郎氏でした．同氏の功績は雑誌「数学」４７巻１号に掲載されています．

既に１９９６年度年会で発表致しましたとおり，第２回受賞者は，マックス・プランク数学研究所前所長，フリードリッヒ・ヒルツェブルッフ教授です．

ヒルツェブルッフ教授は，１９６９年以降，ボン大学に特別研究領域４０「理論数学」を，続いて１９８０年にはボンにマックス・プランク数学研究所を創設しました．これらの機関では，多くの若手研究者を招聘して，長期間滞在させて，優れた数学者を育てることが目的であり，日本からも多くの数学者が恵まれた環境で研究を行いました．

ヒルツェブルッフ教授は創設時から１９９５年に定年退官されるま